

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 5 月 26 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2013～2016

課題番号：25284124

研究課題名（和文）四国遍路の学際的総合研究 - 地域資料によるその実態解明と国際比較 -

研究課題名（英文）Comprehensive and interdisciplinary research for the Shikoku Pilgrimage ; the research with the local documents and on a cross-national perspective

研究代表者

寺内 浩（TERAUCHI, Hiroshi）

愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：40202189

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,300,000円

研究成果の概要（和文）：51番札所石手寺、52番札所太山寺などで資料調査を行い、多くの未発見の文書等を整理し、報告書にまとめた。衛門三郎伝説は本来的には石手寺における熊野信仰の由来譚であり、弘法大師信仰にもとづくものではなかったことなど、多くの新しい事実を明らかにした。また、国内外の他の巡礼との比較研究を行い、四国遍路は権力や教団の関与がなく、一般人が主体の巡礼であることを解明した。

研究成果の概要（英文）：We searched the old historical documents at Temple no. 51, Ishiteji and Temple no. 52, Taizanji. We organized many undiscovered data and published a report. We clarified many new facts. For example, the original legend of Emon Saburo is not based on the faith in Kobo Daishi, but on the faith of Kumano at Temple no. 51, Ishiteji. We did a comparative study of the Shikoku Pilgrimage with other pilgrimages of Japan and overseas countries. We clarified new fact that the Shikoku Pilgrimage was not concerned with a religious community and power, but the Shikoku Pilgrimage was constructed by commoners.

研究分野：日本史

キーワード：四国遍路 巡礼

### 1. 研究開始当初の背景

四国遍路の歴史学的研究は、新城常三、近藤喜博、前田卓氏らによって基礎が築かれたが、近年四国遍路は多くの研究者の関心を集めるようになった。しかし、その多くは、宗教学、文化人類学、地理学などからのアプローチであり、日本史分野からの研究は少ない。

一方、愛媛大学の歴史学と文学の教員が中心となって結成した「四国遍路と世界の巡礼」研究会は、2003年より毎年秋に公開シンポジウムを開催し、またこの間の2002-2004年度、2007-2009年度には科研費を得るなど、四国遍路についての共同研究を継続して行い、多くの成果をあげることができた。またこれらの研究成果は報告書・資料集等にまとめ、学界に発信している。しかし、四国遍路の歴史は古代から現代まで長期にわたり、また未調査の資料も多くあるため、不明の点がまだ数多く残されているのが現状である。

### 2. 研究の目的

四国遍路は、古代に始まり現代まで続いている巡礼である。毎年多くの人々が遍路のため四国を訪れ、四国遍路への関心は年々高まっている。しかし、日本史分野からの研究が少ないため、四国遍路の歴史には未解明の部分が多い。本研究の目的の第一は、四国4県のさまざまな分野の研究者が結集して地域に残る四国遍路関係資料を詳細に調査・分析し、古代から現代に至る四国遍路の歴史の実態を解明することである。第二は、日本及び世界の巡礼との国内・国際比較研究を学際的総合的に行い、四国遍路が国内外の巡礼の中でどのような特質を持っているかを明らかにすることである。すなわち、四国遍路の歴史とその特質を学際的総合的に解明すること、そして日本における巡礼史研究のモデルケースとなることが本研究の目的である。

### 3. 研究の方法

(1)地域に残る四国遍路関係資料を詳細に調査・分析する。これまでもこうした調査は行い、資料集などにまとめてきたが、札所寺院や旧家などには未調査の資料が数多く残されていることが判明している。そこで、本研究では、四国4県の大学・博物館等に所属するさまざまな分野の研究者が数多く結集し、四国に残る四国遍路関係資料を徹底して調査・分析する。

(2)論点を設けての日本及び世界の巡礼との比較研究を行う。巡礼は人類共通の現象といわれるように、国内及び世界には数多くの巡礼が存在している。したがって、四国遍路の歴史的特質を明らかにするためには、日本及び世界の巡礼と比較する視点が必要である。ただ、個別的な比較では統一性に欠けるため、本研究では三つの論点を設け、それを基準として比較検討を行うことにした。三つの論点とは、四国遍路を構成する三つの要素、すなわち、遍路をする人(巡礼者)、88の札所(聖

地)、遍路をする人を受け入れる地域(地域)である。この巡礼者、聖地、地域の三つは日本・世界のいずれの巡礼にも共通しており、これらを論点として四国遍路と日本・世界の巡礼との比較研究を行うことにより、四国遍路の特質を明らかにすることができる。

(3)共同研究体制をさらに充実させる。四国遍路は、日本史だけではなく文学、社会学、民俗学など他分野からのアプローチが必要な研究対象である。これまでの共同研究でも他分野の研究者が加わっていたが、本研究ではそれをさらに進め、日本史研究者だけではなく、遍路・巡礼研究において実績のある外国史、考古学、文学、社会学、文化人類学、民俗学、地理学、美術史の研究者を組織し、充実した学際的共同研究体制を構築する。

### 4. 研究成果

(1)四国遍路関係資料の調査については、寺内浩、胡光、今村賢司らが45番札所岩屋寺、51番札所石手寺、52番札所太山寺、75番札所善通寺で資料調査を行い、多くの未発見・未整理の資料を整理した。また、八幡浜市では依に納められた納札の調査も行った。このうち石手寺・太山寺については、胡光が『四国霊場第五十一番札所石手寺総合調査報告書』、『四国霊場第五十二番札所太山寺総合調査報告書(1)』、『四国霊場第五十二番札所太山寺総合調査報告書(2)』を刊行し、両寺が伊予国の札所や寺院の代表格であったこと、九州からの遍路にとっては両寺が発願・結願の寺であったことなどを明らかにした。岩屋寺については、寺内浩が中世末の岩屋寺では念仏信仰が盛んであったことなどを解明した(「愛媛県久万高原町岩屋寺こけら経・笹塔婆について」)。その他、稲田道彦が『四国遍路の納経帳資料集』、『四国遍礼道指南』を刊行した。

(2)前近代の四国遍路については、川岡勉が、中世の巡礼・参詣は在地社会の自立的・主体的活動に依存していたこと(「日本中世の巡礼・寺社参詣と地域権力」)、大石雅章が、中世以前の修行者中心の辺地修行が江戸時代に民衆による遍路に拡大したこと(「四国遍路と弘法大師信仰」)、寺内浩が、四国遍路縁起は西国巡礼縁起の影響を強く受けていること、衛門三郎伝説は本来的には石手寺における熊野信仰の由来譚であり、弘法大師信仰にもとづくものではなかったこと(「四国遍路縁起と西国巡礼縁起」)、稲田道彦が、88ヶ所成立以前の四国巡礼では、寺院以外の特異な自然景観地などさまざまな場所が参拝地になっていたこと(「四国遍礼道指南」における聖地の景観)、胡光が、新発見の遍路日記をもとに、接待があっても宿泊料・食事料などの必要経費が多く必要であったこと(「遍路日記」に見る四国、その内と外)、河合眞澄が、江戸時代の歌舞伎には四国遍路などの巡礼が登

場し、巡礼の身なりなどが復元できること（「歌舞伎の中の巡礼」）、松永友和が、元禄期における雲辺寺と地蔵院との本末論争に徳島藩は介入しなかったこと（「四国遍路礼所寺院と徳島藩・江戸幕府」）などを明らかにした。

(3) 近代の四国遍路については、小幡尚が、日清・日露戦争期に礼所寺院が戦捷祈願や戦没者慰霊などに積極的に関わっていたこと（「戦争と四国霊場・遍路」）、浅川泰宏が、四国霊場開創という聖年は、開創 1100 年の時に創出されたこと（「四国霊場の聖年モニュメント」）、中川未来が、植民地期台湾の四国 88ヶ所写し霊場は真言宗布教と相互依存的に発展したこと（「植民地台湾の四国八十八ヶ所写し霊場」）、モートン常慈が、西洋人遍路は日本の歴史や文化に触れられることを四国遍路の魅力としており、それは 100 年前から変化していないこと（「世界の視点から見た四国遍路の魅力」）、竹川郁雄が、現代の四国遍路には多様化とともに弘法大師信仰の内面化もみられること（「調査データで見る現代の四国遍路」）などを明らかにした。

(4) 2014 年は四国遍路開創 1200 年の年にあたるため、四国 4 県の美術館・博物館で特別展「空海の足音 四国遍路展」が開催され、長谷川賢二、町田哲、胡光、岡本桂典、今村賢司、三好賢子、御厨義道、上野進、松岡明子らが研究成果を展示するとともに、各県ごとに計 4 冊の図録を刊行した。

(5) 世界の巡礼については、矢澤知行が、台湾の大甲鎮瀾宮遶境進香では四国遍路と同様の巡り型の巡礼行事が行われていること（「中国・台湾の媽祖巡礼」）、石川重雄が、明清代以降組織的な進香が行われ、その様子はガイドブックや法令からうかがえること（「伝統中国における朝山進香」）、吉田正広が、「霊廟」としてのセタノフを中心とする休戦記念日前後の式典やイベントは歴史的複合的に形成・発展してきたこと（「イギリスにおける戦死者の追悼式典と赤いポピー」）、加藤好文が、日系人収容所跡地のマンザナールは「公民権」というアメリカのレガシーを守り継承していく「聖地」として機能していること（「草の根のアメリカ・マンザナール巡礼」）などを明らかにした。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 44 件)

寺内 浩、衛門三郎伝説と熊野信仰、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2号、2017、pp.23 - 27

川岡 勉、日本中世の巡礼・寺社参詣と地域権力、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2号、2017、pp.28 - 36

河合 眞澄、歌舞伎の中の巡礼、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2号、2017、pp.1 - 7

松永 友和、四国遍路礼所寺院と徳島藩・江戸幕府 元禄期の本末論争を通して、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2号、2017、pp.37 - 45

浅川 泰宏、四国霊場の聖年モニュメント 御遠忌、御誕生、そして四国霊場開創の「記憶」、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2号、2017、pp.46 - 54

竹川 郁雄、調査データで見る現代の四国遍路 繁多寺での質問紙調査より、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2号、2017、pp.55 - 63

石川 重雄、伝統中国における朝山進香 研究の現状と課題、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2号、2017、pp.64 - 72

弘末 雅士、国民国家における巡礼 インドネシア人と宗教、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2号、2017、pp.73 - 78

吉田 正広、イギリスにおける戦死者の追悼式典と赤いポピー Great Pilgrimage の今、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2号、2017、pp.79 - 87

加藤 好文、草の根のアメリカ・マンザナール巡礼、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2号、2017、pp.88 - 95

寺内 浩、四国遍路縁起と西国巡礼縁起、愛媛大学法文学部論集人文学科編、査読無、42号、2017、pp.1 - 12

大石 雅章、四国遍路と弘法大師信仰、四国遍路と世界の巡礼、査読無、1号、2016、pp.2 - 11

稲田 道彦、「四国遍路道指南」における聖地の景観、四国遍路と世界の巡礼、査読無、1号、2016、pp.30 - 34

小幡 尚、戦争と四国霊場・遍路 高知の事例、四国遍路と世界の巡礼、査読無、1号、2016、pp.35 - 42

中川 未来、植民地台湾の四国八十八ヶ所写し霊場、四国遍路と世界の巡礼、査読無、1号、2016、pp.43 - 50

モートン 常慈、世界の視点から見た四国遍路の魅力：西洋人遍路を例として、四国遍路と世界の巡礼、査読無、1号、2016、pp.22 - 29

寺内 浩、愛媛県久万高原町岩屋寺こけら  
経・笹塔婆について、愛媛大学法文学部論集  
人文学科編、査読無、40号、2016、pp.15 -  
32

西 耕生、『西行聞書』歌注本文対観(上)、  
愛媛大学法文学部論集人文学科編、査読無、  
39号、2015、pp.21 - 63

矢澤 知行、中国・台湾の媽祖巡礼 - その  
成立・展開・現状について -、2014年度公開  
講演会・研究集会プロシーディングズ、査読  
無、2015、pp.28 - 35

胡 光、「遍路日記」に見る四国、その内  
と外、2013年度公開講演会・公開シポジウ  
ムプロシーディングズ、査読無、2014、pp.19  
- 24

〔学会発表〕(計 53件)

モートン 常慈、The Shikoku Pilgrimage  
- Its History, Culture and Traditions、  
アジアフォーラムプロジェクト、20170313、  
プリティッシュコロンビア大学(バンクーバ  
ー・カナダ)

大稔 哲也、イスラームの巡礼・参詣と四  
国遍路との比較から - メッカ巡礼とエジプ  
ト死者の街参詣 -、2016年度四国遍路・世界  
の巡礼研究センター研究集会、20161030、愛  
媛大学(愛媛県・松山市)

井上 淳、近世後期における四国遍路の普  
及 菱垣元道を事例として、四国遍路・世  
界の巡礼研究センター第2回公開研究会、  
20160730、愛媛大学(愛媛県・松山市)

青木 亮人、文学や漫画から見る近現代の  
遍路、2015年度四国遍路・世界の巡礼研究セ  
ンター研究集会、20151018、愛媛大学(愛媛  
県・松山市)

胡 光、四国遍路の歴史と文化、四国4県  
とスペイン・ガリシア州協力協定調印記念国  
際シンポジウム、20150901、スペイン・パラ  
ドル(サンティアゴ・スペイン)

関 哲行、アンドゥーハルの聖母 - 近世ス  
페인におけるムスリム王族の改宗 -、四国  
遍路・世界の巡礼研究センター第1回公開研  
究会、20150711、愛媛大学(愛媛県・松山市)

小嶋 博巳、巡礼と伝承 三十三度、六十六  
部、八十八カ所、説話・伝承学会 2015  
年度大会、20150502、京都女子大学(京都府・  
京都市)

〔図書〕(計 51件)

胡 光、四国遍路・世界の巡礼研究センタ

一、四国霊場第五十一番札所石手寺総合調査  
報告書、2017、180

稲田 道彦、香川大学瀬戸内圏研究センタ  
一、四国遍路の納経帳資料集、2017、177

胡 光、愛媛大学法文学部日本史研究室、  
四国霊場第五十二番札所太山寺総合調査報  
告書(2)、2016、150

長谷川 賢二、岩田書院、修験道組織の  
形成と地域社会、2016、320

長谷川 賢二 他、岩田書院、熊野那智  
御師史料、2015、194(49 - 57、85 - 106)

稲田 道彦、講談社、四国遍礼道指南、2015、  
331

胡 光、愛媛大学法文学部日本史研究室、  
四国霊場第五十二番札所太山寺総合調査報  
告書(1)、2015、150

胡 光、今村 賢司 他、愛媛県美術館、  
空海の足音・四国遍路展・愛媛編、2014、  
238(177 - 182、183 - 190)

岡本 桂典、村山 望 他、高知県文化財  
団、空海の足音・四国遍路展・高知編、2014、  
239(25 - 177)

長谷川 賢二、町田 哲 他、徳島県立博  
物館、空海の足音・四国遍路展・徳島編、2014、  
237(178 - 185、189 - 191)

松岡 明子、三好 賢子、上野 進、御厨  
義道 他、香川県立ミュージアム、空海の足  
音・四国遍路展・香川編、2014、203(102 -  
118、150 - 152、162 - 163)

関 哲行 他、慶應義塾大学出版会、地中  
海世界の旅人 移動と記述の中近世史、  
2014、328(1 - 23)

寺内 浩、胡 光、竹川 郁雄、川岡 勉、  
弘末 雅士、小嶋 博巳、稲田 道彦、浅川  
泰宏、モートン 常慈、石川 重雄、矢澤 知  
行、吉田 正広、加藤 好文、高橋 弘臣、  
内田 九州男、山川 廣司 他、岩田書院、  
巡礼の歴史と現在 四国遍路と世界の巡礼  
、2013、341(1 - 264、283 - 322)

〔その他〕

ホームページ

<http://henro.ll.ehime-u.ac.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

寺内 浩(TERAUCHI, Hiroshi)  
愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：40202189

(2)研究分担者

胡 光(EBESU, Hikaru)  
愛媛大学・法文学部・教授  
研究者番号：50612644

西 耕生(NISHI, Kosei)  
愛媛大学・法文学部・教授  
研究者番号：30259452

竹川 郁雄(TAKEKAWA, Ikuo)  
愛媛大学・法文学部・教授  
研究者番号：60236445

川岡 勉(KAWAOKA, Tsutomu)  
愛媛大学・教育学部・教授  
研究者番号：90186057

大石 雅章(OISHI, Masaaki)  
鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授  
研究者番号：50152046

町田 哲(MACHIDA, Tetu)  
鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授  
研究者番号：60380135

小幡 尚(OBATA, Hisashi)  
高知大学・人文社会科学部部門・教授  
研究者番号：30335913

長谷川 賢二(HASEGAWA, Kenji)  
徳島県立博物館・人文課・課長  
研究者番号：00372227

松永 友和(MATSUNAGA, Tomokazu)  
徳島県立博物館・人文課・学芸員  
研究者番号：40610316

大稔 哲也(OTOSHI, Tetuya)  
早稲田大学・文学学術院・教授  
研究者番号：10261687

弘末 雅士(HIROSUE, Masashi)  
立教大学・文学部・教授  
研究者番号：40208872

関 哲行(SEKI, Tetsuyuki)  
流通経済大学・社会学部・教授  
研究者番号：60206620

小嶋 博巳(KOJIMA, Hiromi)  
ノートルダム清心女子大学・文学部教授  
研究者番号：60186682

稲田 道彦(INADA, Michihiko)  
香川大学・経済学部・教授  
研究者番号：70133155

浅川 泰宏(ASAKAWA, Yasuhiro)  
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授  
研究者番号：90513200

モートン 常慈(MOTON, Joji)  
徳島大学・大学院総合科学研究部・准教授  
研究者番号：40469333

石川 重雄(ISHIKAWA, Shigeo)  
東洋文庫・研究部・研究員  
研究者番号：50636678

河合 眞澄(KAWAI, Masumi)  
大阪府立大学・人間社会学部・教授  
研究者番号：00169674

矢澤 知行(YAZAWA, Tomoyuki)  
近畿大学・国際学部・教授  
研究者番号：60304664

(3)研究協力者

高橋 弘臣(TAKAHASHI, Hiroomi)

菅谷 成子(SUGAYA, Nariko)

吉田 正広(YOSHIDA, Masahiro)

加藤 好文(KATO, Yoshihumi)

神楽岡 幼子(KAGURAOKA, Yoko)

青木 亮人(AOKI, Makoto)

中川 未来(NAKAGAWA, Mirai)

内田 九州男(UCHIDA, Kusuo)

山川 廣司(YAMAKAWA, Hiroshi)

今村 賢司(IMAMURA, Kenji)

井上 淳(INOUE, Jun)

上野 進(UENO, Susumu)

松岡 明子(MATSUOKA, Akiko)

三好 賢子(MIYOSHI, Masako)

御厨 義道(MIKURIYA, Yoshimichi)

岡本 桂典(OKAMOTO, Keisuke)